



地方創生にかかわる中小企業の役割



静岡県出身。東京国際大学経済学部国際学科卒業。米国オレゴン州TIUアメリカ校卒業。1993年株式会社ベンチャー・リンク入社。2010年同社取締役就任。11年同グループのMBOにより独立。インクグローウ株式会社の代表取締役社長を務めたのち、15年より現職。地方自治体の地方創生プロモーションの支援に従事する一方、経済産業省「女性起業家等支援ネットワーク構築事業」の静岡県主宰としても活躍している。

今求められる 「地域のリーダー像」とは③

10

Human Delight株式会社 代表取締役社長

野田 万起子 のだ まきこ

地元の若者や青年会議所の仲間と共に「夕張再生の会」を発足

「夕張メロン」が全国的に有名な夕張市は、ほぼ北海道の中心にあり、夕張岳やマウントレーススイスキー場など、自然を活かしたアクティビティが充実した市です。

しかしながら、2007年に財政破綻し行政財政再建中の市となっています。その影響で、住民サービスは低下し、働き盛りの20代〜40代の殆どが市外に流出し、市民は自らの生活でさえ困窮しており、地域創生の活動など行う余裕がないのが現状です。

また元々は、「財閥がつくったまち」という性質上、地域愛が薄いように見受けられるのです。

このような状況で、このままでは財政再建計画が終了し破綻状態が終了したとしても、その頃には、まち自体がシュリンクして実質的に「まち」の機能を果たさなくなってしまうのではないかとという危機感から「夕張再生の会」は立ち上がりました。

現在、上田氏は住民票を夕張市に移し、一般社団法人夕張再生の会代表となっております。

夕張から日本を変える。「よそ者」の挑戦

活動当初は、なかなか賛同を得ることが出来なかったが「できない」を「できる！」に変えるという理念で5年間の活動を維持しているとおっしゃいます。

まず、若者の市民参画による地域創生事業を実践することに意義があると考え、市民参画事業を実践

これまで、「地方創生」は官民連携が必要不可欠との話を度々してきました。しかしながら、その連携の仕方が大変重要であることは言うまでもありません。

今回は、中小企業経営者で地元小田原市を中心に事業展開をしながら、自身の出身地ではないにも関わらず、ある市に尽力する一人のリーダーをご紹介します。

何故に北海道「夕張市」のまちの未来を応援するのか

私が初めてお会いした時、「夕張市の未来」を熱心に語るの方は、当然、夕張の出身とばかり思っていました。その方のお名前は、上田博和氏、(株式会社清王サービス代表取締役社長)です。

ところが、お話を聞いて驚きました。上田社長は神奈川県出身で、若くして清掃会社を起業し、地元小田原にて幅広く事業を展開されています。

26歳の時、小田原青年会議所に入会し、小田原市の活性化を図り、ご自身の事業と同時に社会貢献に取り組みようになりました。この時点で地域のリーダーの素質を存分に発揮していらっしゃるのですが、その後、小田原青年会議所の理事長を経験し、日本青年会議所の役員を4年間お務めになります。

そのような経験をされる中、「地元だけではなく全国の地域創生を考える」ようになったと仰います。日本青年会議所を卒業後、北海道夕張市の青年会議所の会員が2名であることを知り、単身で夕張市に出走き、まちの動きや経済状況を見聞し、何か協力・応援することはないだろうかと思えるようになったのがきっかけとなったのです。

これらの活動を通じて、夕張市民の意識を大きく変えることに尽力しています。参画している市民からは、「やりがいを感じた」「改めて地域愛が芽生えた」「地域住民の一員としての自覚が持てた」という声が聞けるようになったのです。

- ① 夕張コミュニティサイトの構築・運営プロジェクト
- ② 図書館の設置
- ③ 紅葉祭りの再開
- ④ ゆうぱり国際ファンタスティック映画祭の支援

このような実績の評価は高く、今後は行政と民間の間の仲介役として、夕張市役所や、ゆうぱり観光協会等と連携し、夕張市地域総合計画「RESTART」のKPI達成のために邁進されていきます。

上田社長はご自身の会社を経営する現役経営者であります。夢は、将来必ず夕張市を復興させるとともに、そのノウハウを全国の地域で展開することで、日本の地域創生に寄与したいというものです。

夕張市は日本の地域におけるワーストシナリオを既に歩んでいるまちです。

それ故に、夕張市の復興は日本の地域全体が最悪の状態になった際の復興手段を意味することになるのではないのでしょうか。

先